



子育ての

ココが聞きたい！

VOL. 10



水・砂・泥で遊ぶ

～遊びが育ちにつながるように～

水・砂・泥遊び。子ども達が大好きな遊びですね！

雨上がり、あちこちに出現する“水たまり”。

子どもを引き寄せる魔力を秘めた水たまりを前には「やめて！ 入らないでっ」と言う大人の声など無力です。

水……泥遊びの始まりです。バシャバシャ足踏みをしたり、手で触ったり。最後には底に溜まった泥をこねて「お団子！」と輝く笑顔で見せてくれたり。可愛いけれど、泥にまみれた服や靴をみて「誰が洗うと思ってるの？」と大人の本音が漏れてしまいそうになります。

大人からすると、洗濯物の“種”であり、ついつい厄介者扱いしてしまう汚れる遊びですが、これらには乳幼児期の子どもの育ちを支える、大切な要素がたくさん含まれています。

保育の世界では水・砂・泥遊びは“感覚遊び”と呼ばれています。

感覚遊びとは、人間の持つ「視覚」「聴覚」「触覚」に加え、「固有受容覚（体の動きや力加減を感じる感覚）」と、「前庭覚（身体の傾きやスピード、回転を感じる感覚）」で様々なものに触れて遊ぶ事を言います。

水・砂・泥は、その時々で見た目、感触、音が変わります。砂に水を入れたら、サラサラがジャリジャリに。もっと入れたらドロドロに。それぞれが子どもの感覚を程よく刺激し、遊びに夢中にさせ、どういう風にしようか！と想像力を掻き立たせます。

このように様々な物に触れ合い、刺激されることで、子どもの心身の発達が促されていきます。また、集中力が養われ、複数の情報を同時に処理する力が養われていくのです。

いいことばかりの感覚遊びですが、これらは“やらせるもの”でも“やらされるもの”でもありません。子どもによっては、慣れない刺激や汚れを嫌がる場合があります。そのような場合、無理にやらせてしまっては逆効果となってしまいます。子どもそれぞれの楽しみ方を見守りましょう。子ども達が主体的に遊び、楽しむことが大切なのです。

その為に大人たちは、子どもが安心して遊べる環境を整えてあげましょう。また大人自身も、無理なく負担の少ない方法を見つけ、子どもと共に遊びを楽しみましょう。

水・砂・泥遊び大人も楽しく3か条！

1

汚れてもいい服で！

ちょっとした汚れは気にしない



2

長靴で遊ぼう！

洗いやすく、すぐ乾く。そして汚れにくい。敏感な子にも直接触れ合わないのにおすすめ



3

たらいや、トロ箱を使おう！

砂や水を入れて遊べて、片付けも簡単です。汚れも気にならない！

